



## 2学期の進路懇談会が終わりました

### 昨年までより高い競争率(公立)

1月29日に、県教委による「進学希望者数等動向調査」の集計結果が新聞に発表されました。この発表の後に各校で進路懇談会が行われましたから、調査後に志望校を変更した生徒もいるはずですが、今年の尼崎市内の高校は、昨年までより高い競争率での入試になることが予想されています。11月末の調査では、尼崎市内の9つの全日制高校で、2680人の募集定員に対して3468人の生徒が希望していました。競争率は1.29倍です。100人が受検したら22人が不合格になるという、かなりきびしい数字です。もちろん、高校によって競争率は異なり、競争率の低い高校もあれば、競争率の高い高校もありましたが、市内全体で見れば高い競争率です。

### 2・3月の入試では違った競争率に

この調査の学校別の希望者数は、普通科は特色選抜の希望者と複数選抜の希望者を合わせたものです。また、単位制と総合学科では推薦入試と複数選抜の希望者を合わせたものです。同じ普通科でも特色選抜と複数選抜では競争率が違いますし、2月の推薦・特色入試で不合格になった人からかなりの人が複数選抜を受けるはずですが、その数は現時点ではカウントされていません。ですから、入試のときの実際の競争率は違った数字になります。また、この調査の県全体の集計結果が発表されたのは11月下旬ですが、各中学校で調査が行われたのは11月上旬です。多くの中学校では、進路懇談会に向けて11月下旬に進路調査を再度行っていますから、その集計では、少し違った希望者数が出ています。わずか半月ほどの間に動きがあったことがうかがえます。ですから、進路懇談会が終わった2学期末の時点で調査があれば、また違った数字になるはずですが、3月入試については、出願後の志願変更もありますから、その時点まで正確な競争率はつかめない、というのが正直なところです。

### 市外の生徒が尼崎の高校をたくさん受検予定

この調査の「希望者」には尼崎市外の生徒も含まれています。第2学区全体での現住所のある市町以外の高校を希望している生徒の数は11.5%と発表されていましたが、尼崎学区には、これよりかなり多い%で他市町からの希望者がいます。西宮市や伊丹市との境目に近い位置にある高校や交通の便が良い高校が多いことが他市町からの希望者が多い原因の一つでしょう。高校別の他市町からの希望者数もわかっているのですが、中学生や保護者の混乱をさけるため、学校だよりやホームページに掲載してはいけないうことになっていますので、ご理解ください。

こういう状況ですが、昨年までより競争率が高くなり入試がむづかしくなることは、間違いありません。

### 入試に「100%合格」はありません慎重な志望校選びが大切です

このような中、今年は、昨年度までのデータだけでなく、公表はできませんが中学校が把握している数字、他市町と情報交換をしたデータなども利用し、慎重に検討して個々の進路懇談に臨んだことをご理解ください。

他市町の生徒が尼崎の高校を受検するようになりましたから、高校ごとや学科ごとの最低合格点やボーダーは、昨年度までの市内だけで行われていた入試より高くなるのが予想されています。ですから、今年については、私学の併願校なども視野に入れながら、第1希望校が不合格だったときの志望校やその次の志望校を慎重に選んでおくことが大切です。普通科については、「その他校」の志望がなくなりましたから、「第2志望校」の選び方も大切です。今年の公立入試は、「以前はこれくらいの成績で合格した」というのは通用しません。そのように意識を転換して、志望校の決定をしておく必要があります。

おそらく、公立入試については、数年間はこれまでとは違った状況が続き、入試はむづかしくなると思います。今の1・2年生は、入試のレベルが上がっても志望校に合格できるだけの実力を1・2年生の時からつけておくことが求められます。

また、入試は、受けてみるまで合否はわかりません。それは、どんなに成績の良い人や実力を持っている人でも同じです。利き手を骨折する、熱が出るなどで、入試の時にふだんの力が出せずに不合格になるということは、誰にでも起こりうることです。ですから、万が一に備えておく必要があります。今年のように、入試のレベルが上がることが見込まれるときは、より一層慎重に備えをしておくことが必要です。

### できるだけ実力を伸ばすことが必要

さて、これから入試までの2~3ヶ月の学習のことで。

大庄中の3年生、学校での授業の取り組みは1・2年生の時より良くなりました。少しずつながら、実力も伸びてはいます。しかし、市内全体の中学生も実力を伸ばしています。1学期の第12号でもお知らせしましたが、11月の実力テストの市内全体と大庄中の状況を比べてみました。[表1]を見てください。今回の「学力調査」(実力テスト)と6月の「学力調査」、2年2月の「到達度調査」とを比べて、教科ごとおよび5教科計での本校平均が、それぞれ市内平均の何%だったかを示した表です。教科によって上がり下がりもありますが、全体としては少しずつ市内平均に近づいています。しかし、やはり11月でも大庄中全体としては、市内平均には届いていません。

また、[表2]は、今回と6月の「学力調査」、2年2月の「到達度調査」について、5教科の合計得点を100点ごとのグループにして、そのグループの人数分布の%を大庄中と市内全体と比較したものです。これも、5教科計で200点以下の人の%が、市内平均より依然として17%ほど多いものの、6月よりは少なくなっていますし、300点以上の人の%も6月よりは増えています。点数が取れるようになった人が増えたということです。しかし、入試に向けて、必要な点数が取れていない人がいるのは変わりありません。これから入試までの間に、もっともっと実力をつけて、全員が志望校に合格できることを願っています。

教科	中2	中3	中3
	2月	6月	11月
国語	85.9%	91.2%	90.0%
社会	82.5%	91.4%	82.9%
数学	73.0%	74.6%	81.6%
理科	82.3%	85.7%	90.1%
英語	71.0%	69.0%	77.8%
5計	79.3%	83.5%	85.2%

得点分布	2月		6月		11月	
	本校	市内	本校	市内	本校	市内
400点以上	0.0%	4.6%	0.7%	2.7%	0.7%	6.4%
300~399点	11.9%	26.1%	8.0%	19.5%	17.8%	26.3%
200~299点	32.8%	37.5%	31.4%	37.0%	34.1%	36.4%
100~199点	41.8%	26.0%	49.6%	34.7%	39.3%	25.6%
0~99点	13.4%	5.9%	10.2%	6.1%	8.1%	5.2%